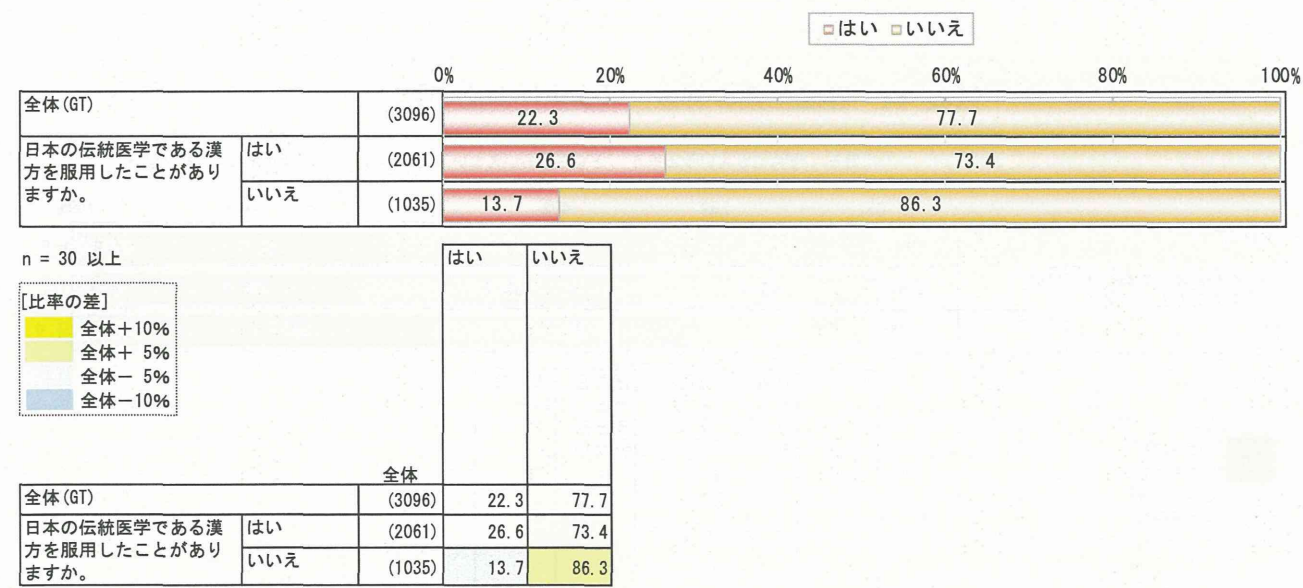


(4) 服用経験別クロス集計

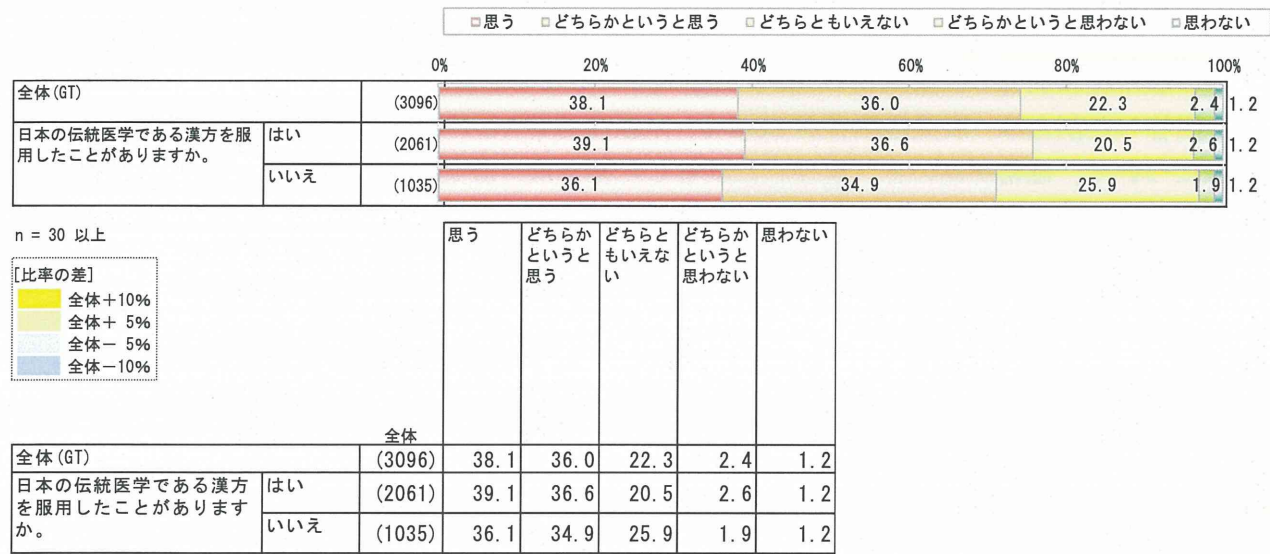
1) 生薬について

漢方の服用経験別での生薬原料の 80%が輸入であることを知っているかについては、「はい」と回答した割合は、服薬経験者が 26.6%、未経験者が 13.7%であった。また、国内生薬の特徴について、価格が高いと「思う」に回答した割合は、服薬経験者が 39.1%、未経験者が 36.1%であった。安全性が高いと「思う」に回答した割合は、服用経験者が 28.7%、未経験者は 23.3%であった。生産量が少ないと「思う」に回答した割合は、服用経験者は 33.1%、未経験者は 29.9%であった。国産生薬の割合を増やすべきかについては、「思う」と回答した割合は、経験者は、49.9%、未経験者は 36.6%であった。

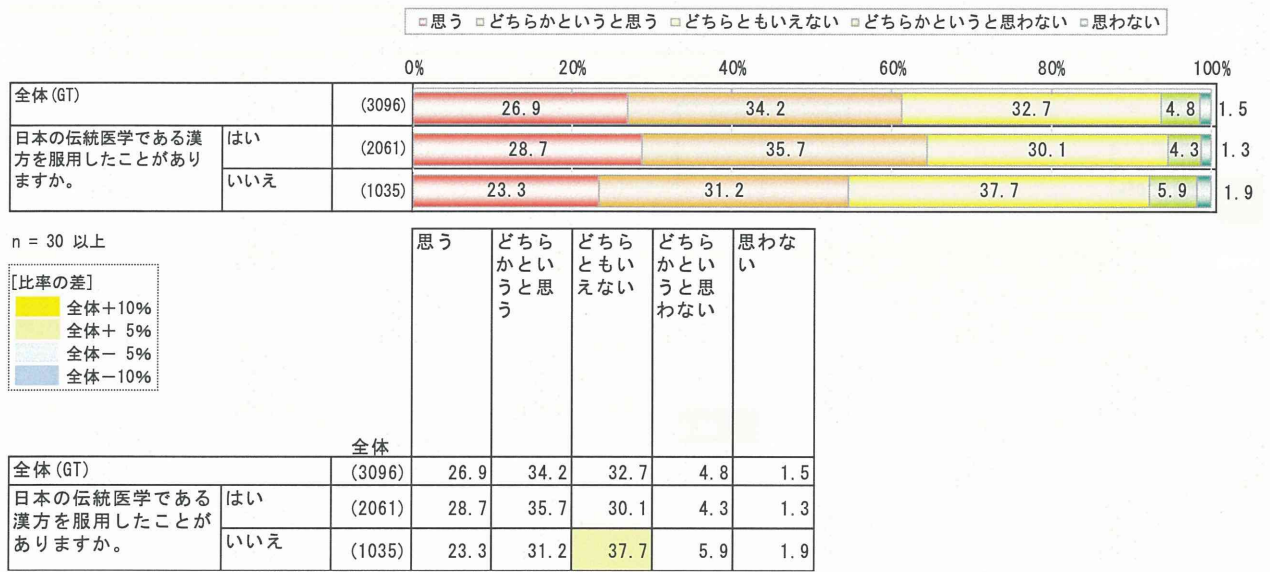
図表 42 漢方の原料（生薬）の輸入状況の理解



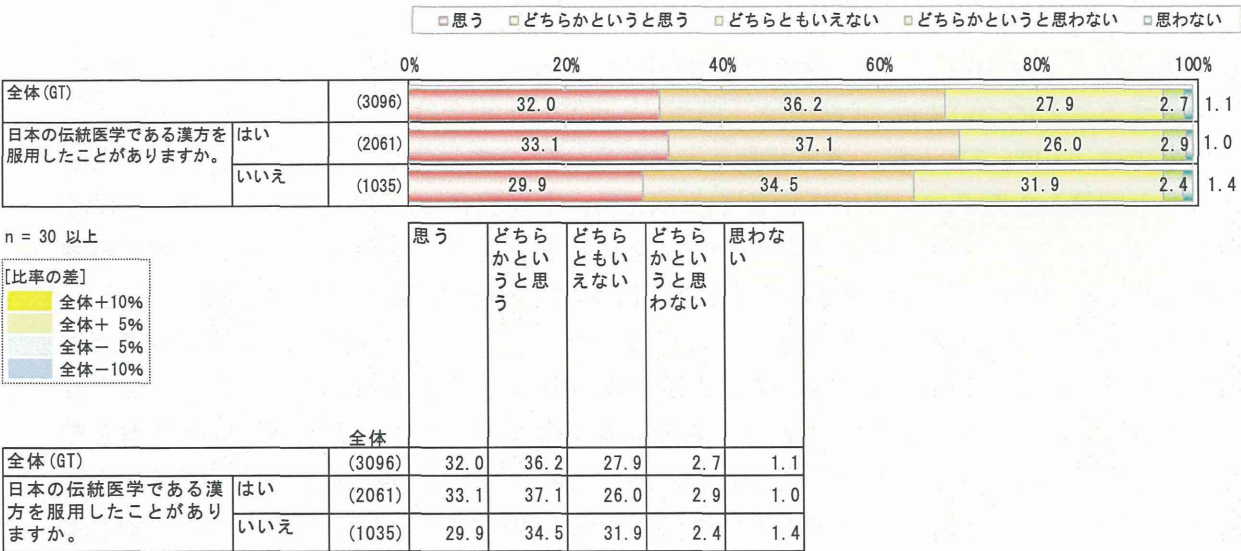
図表 43 国産生薬の特徴 【価格が高い】



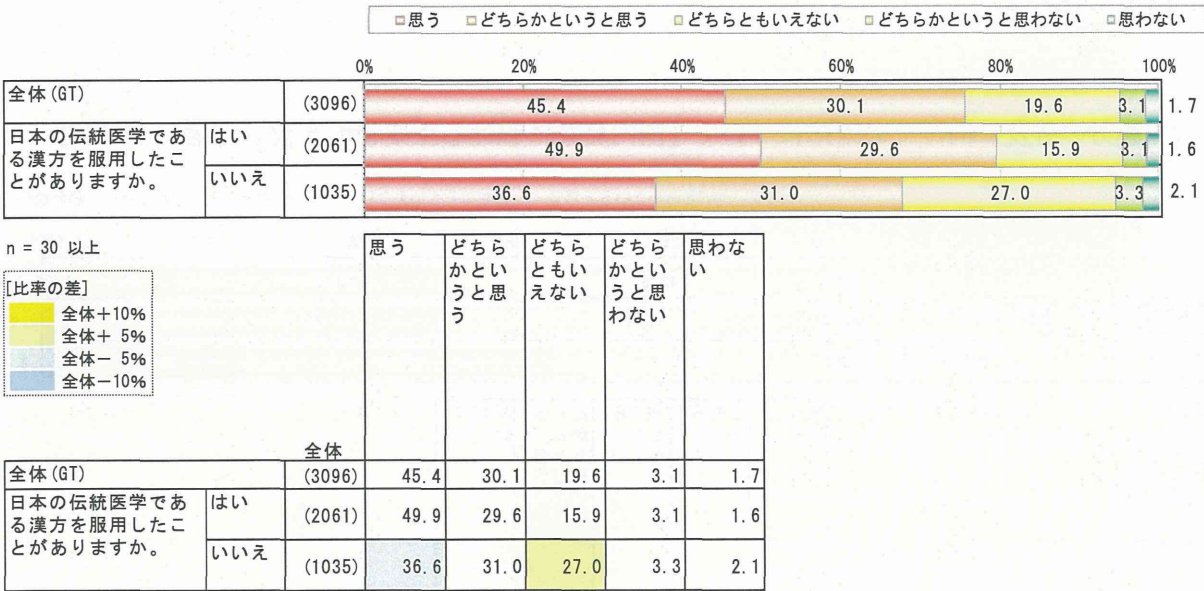
図表 44 国産生薬の特徴 【安全性が高い】



図表 45 国産生薬の特徴 【生産（栽培）量が少ない】



図表 46 国産生薬の増産への意向

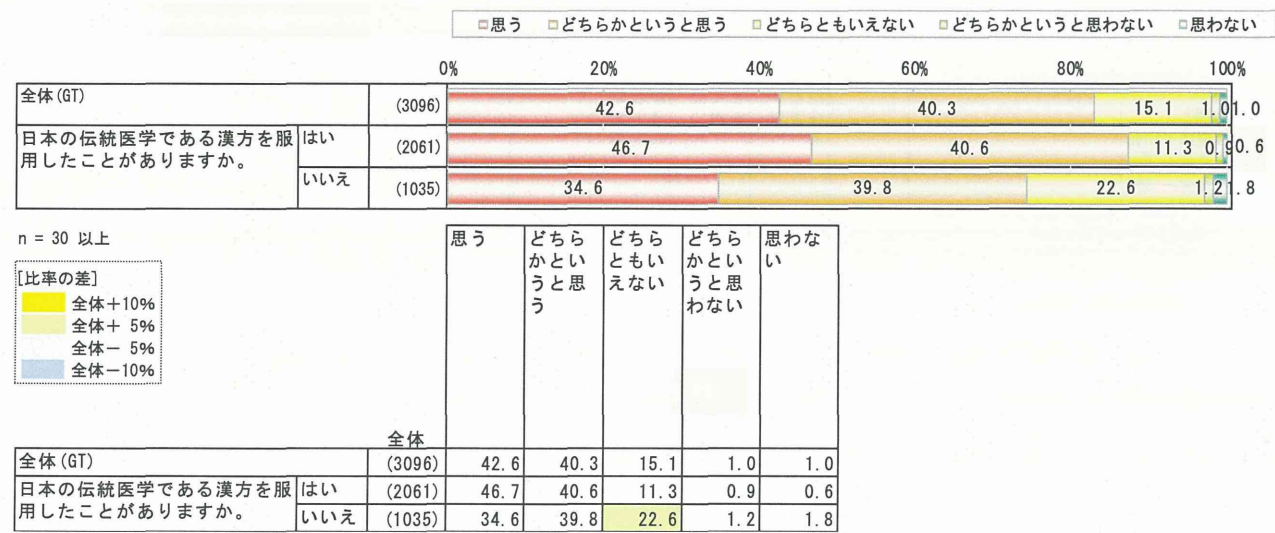


2) 漢方の普及について

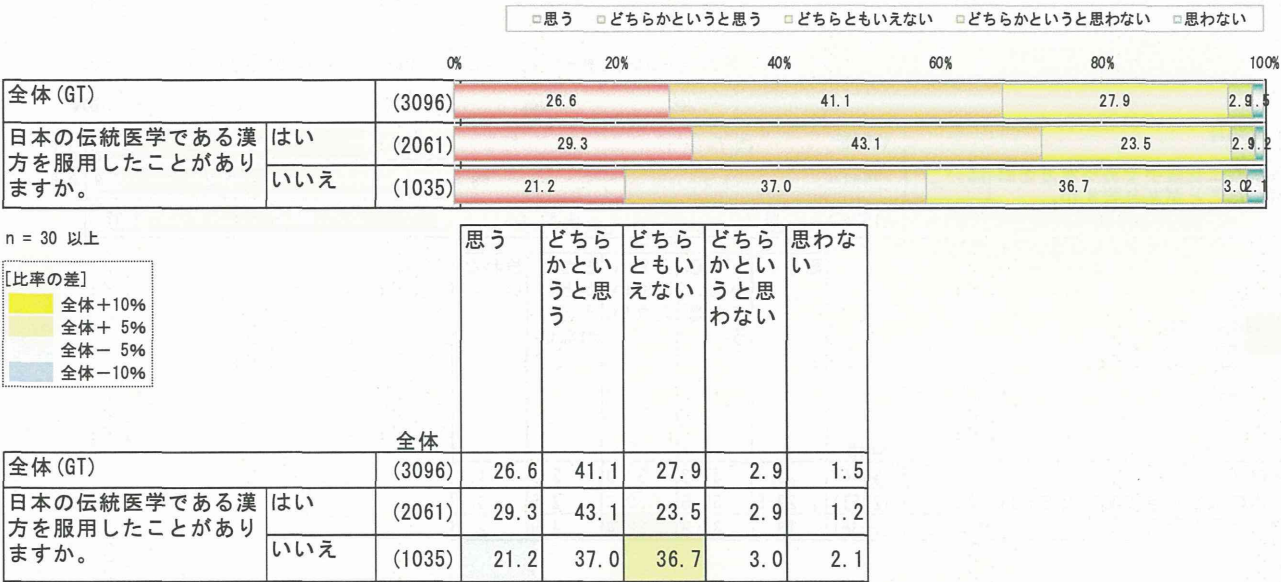
漢方のより一層の普及にむけての取り組みについて、各取り組み事項を漢方服用経験別にみると、国内農業における生薬栽培基盤の整備については、必要だと「思う」と回答した割合は服用経験者では46.7%、未経験者では34.6%であった。また、ITを用いた先進的栽培技術を導入することについては、必要だと「思う」と回答した割合は、服用経験者では29.3%、未経験者では21.2%であった。漢方が食品・化粧品分野へ拡大することについて、必要だと「思う」と回答した割合は、服用経験者では24.5%、未経験者では17.2%であった。医師や薬剤師が積極的に漢方を進めることについて、必要だと「思う」と回答した割合は服用経験者では29.5%、未経験者では18.2%であった。IT等による漢方診断（支援）の普及を通じ、より容易に漢方の判定が得られることについては、「思う」と回答した割合は服用経験者では19.4%、未経験者では15%程度であった。入手手段の多様化が進むことについては、「思う」と回答した割合は、服用経験者では21%、未経験者では15.7%であった。漢方産業基盤を整備することについては、必要だと「思う」と回答した割合が、服用経験者では34.8%、未経験者では25.8%であった。漢方関連学会等が広く一般に周知することについては、必要だと「思う」と回答した割合は、服用経験者では30.6%、未経験者では23.4%であった。

検査や診断技術の向上によってより自分に適した漢方の判定が可能になった場合の服用の意思については、服用したいと「思う」と回答した割合は、服用経験者では31.8%、未経験者では14.5%であった。

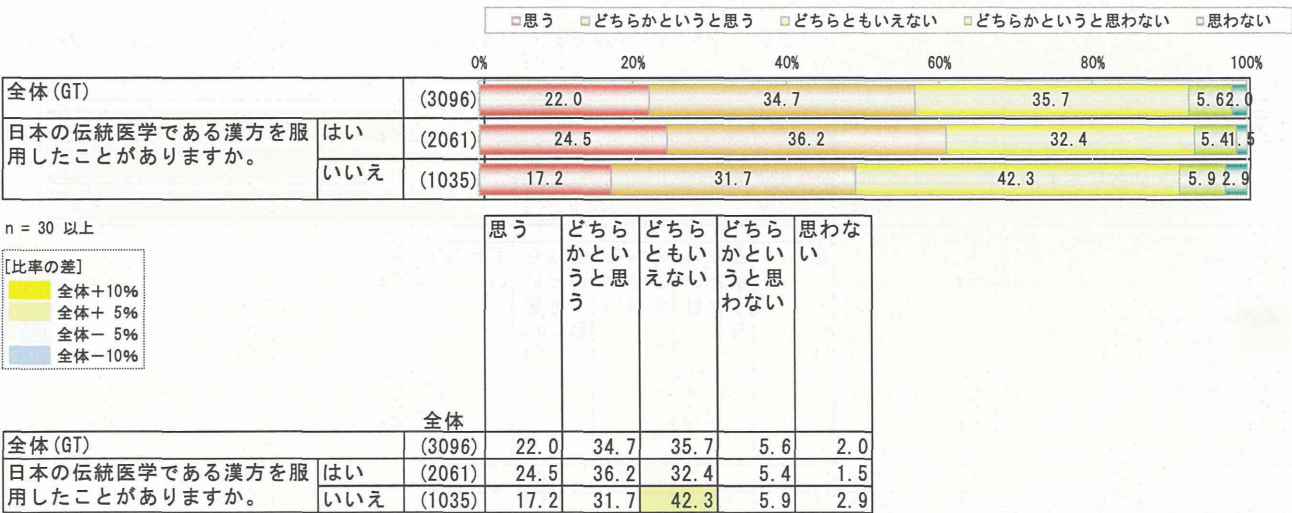
図表 47 漢方の普及に向けての対応について【国内農業における生薬栽培基盤を整備すること】



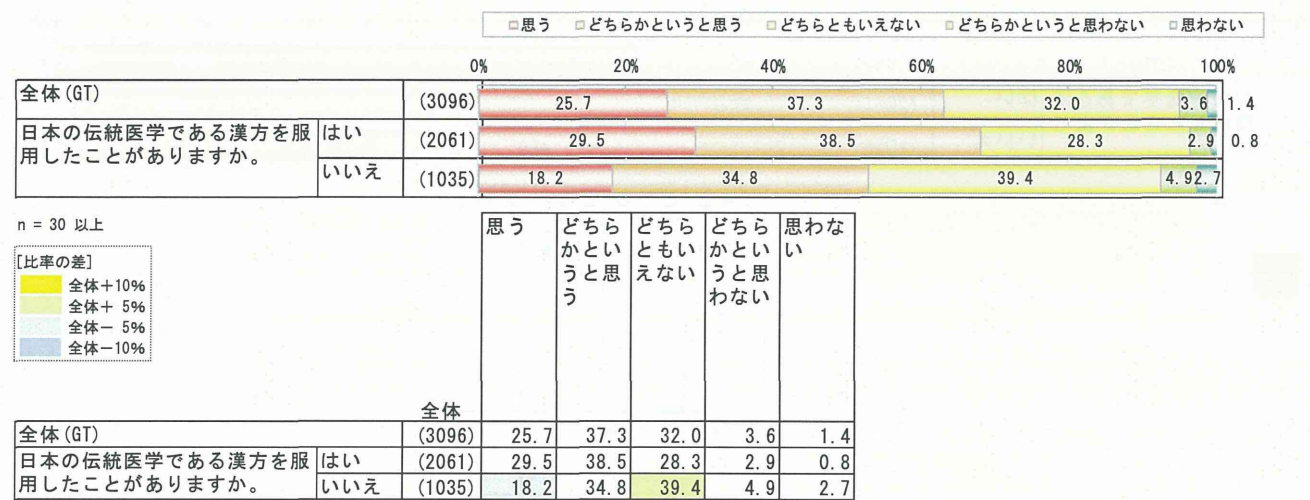
図表 48 漢方の普及に向けての対応について【IT を用いた先進的栽培技術を導入すること】



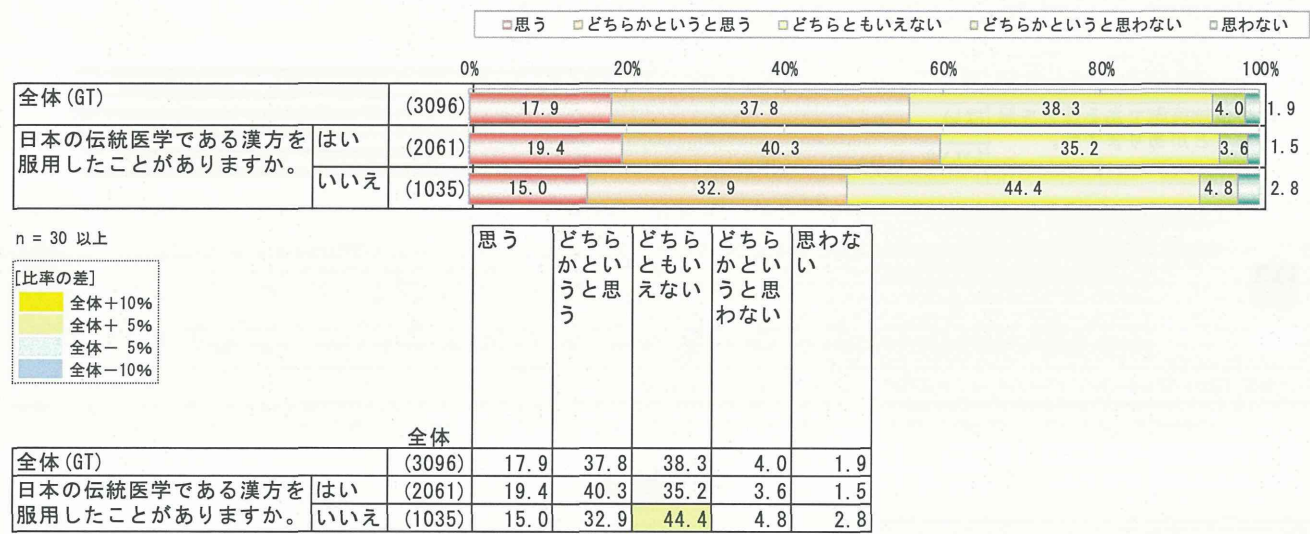
図表 49 漢方の普及に向けての対応について【漢方が食品・化粧品分野へ拡大すること】



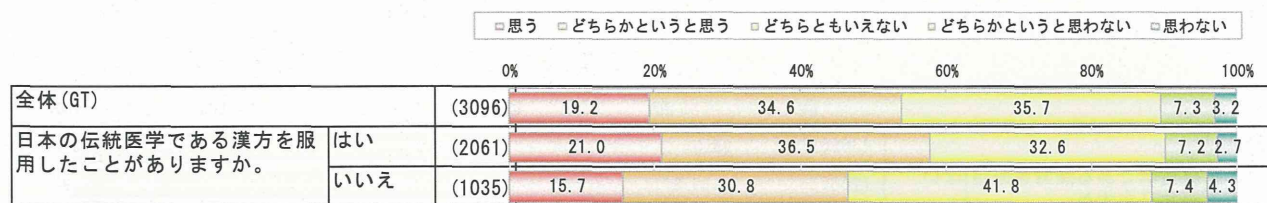
図表 50 漢方の普及に向けての対応について【医師や薬剤師が積極的に漢方を進めること】



図表 51 漢方の普及に向けての対応について【IT 等による漢方診断の普及を通じ、より容易に漢方の判定が得られること】



図表 52 漢方の普及に向けての対応について【入手手段の多様化が進むこと】



n = 30 以上

[比率の差]

全体+10%
全体+ 5%
全体- 5%
全体-10%

		全体					
全体 (GT)		(3096)	19.2	34.6	35.7	7.3	3.2
日本の伝統医学である漢方を服用したことがありますか。	はい	(2061)	21.0	36.5	32.6	7.2	2.7
	いいえ	(1035)	15.7	30.8	41.8	7.4	4.3

図表 53 漢方の普及に向けての対応について【漢方産業基盤を整備すること】



n = 30 以上

[比率の差]

全体+10%
全体+ 5%
全体- 5%
全体-10%

		全体					
全体 (GT)		(3096)	31.8	42.1	23.2	1.7	1.2
日本の伝統医学である漢方を服用したことがありますか。	はい	(2061)	34.8	44.7	18.3	1.7	0.5
	いいえ	(1035)	25.8	37.0	33.0	1.7	2.4

図表 54 漢方の普及に向けての対応について【漢方関連学会等が広く一般に周知すること】



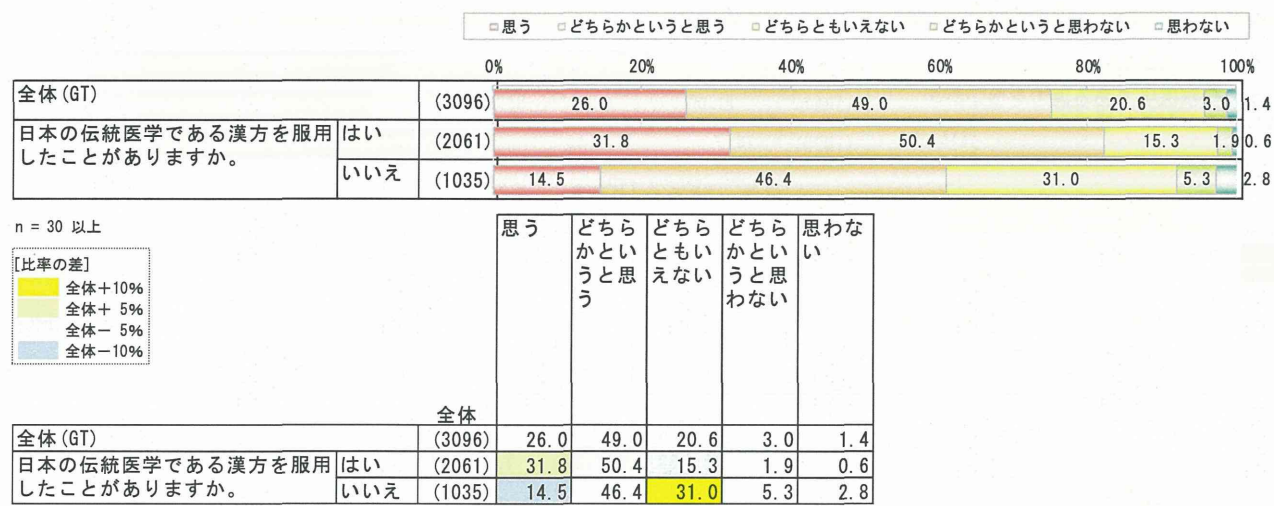
n = 30 以上

[比率の差]

全体+10%
全体+ 5%
全体- 5%
全体-10%

		全体					
全体 (GT)		(3096)	28.2	41.3	27.0	2.2	1.4
日本の伝統医学である漢方を服用 したことがありますか。	はい	(2061)	30.6	43.6	23.0	2.1	0.7
	いいえ	(1035)	23.4	36.7	34.9	2.4	2.6

図表 55 診断技術の向上による漢方の服用意向



4. 考察

消費者に対するアンケート調査を通じ、国内市場における漢方に関する消費者の認知度当が明らかになった。

具体的には、漢方の服用については、年代に関係なく 6 割以上が服用経験者であり、主な服用の目的は、日常的な病気の対応や体質改善であり、特に若い年代でその割合が大きいなど、年代により異なることが明らかになった。また、生薬原料の現状の輸入状況について正しく認識されている割合は、2 割程度にとどまった。さらに、海外産生薬と比べた国産生薬の特徴に関する認識においては、価格、安全性ともに高いと回答している割合は大きく、また、品質のばらつきや生産（栽培）量が少ないといった割合も大きかった。

また、漢方のより一層の普及に向けた取り組みについては、国内農業における生薬栽培基盤の整備（生薬栽培に必要な種苗の安定供給等）や漢方産業基盤の整備（生薬栽培～製造・流通・消費）の有効性について「思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合は、他の取組事項に比して大きいなど、取組事項間で有効性の認識に違いがあることが明らかになった。

以上から、今後は、漢方産業化に向けて、消費者に対して漢方薬の生産等に関する適切な情報発信を進めつつ国内の生薬栽培基盤や漢方産業基盤を整備するなどの、消費者の意向を踏まえた方策が必要になると考えられる。

漢方産業化に係る市場調査(消費者調査)
報告書

平成26年2月

株式会社三菱総合研究所
人間・生活研究本部

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

原著論文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
林 茂樹、菱田敦之、湊野裕之、竹脇大気、和田浩志、京極春樹、川原信夫	異なる土壌水分環境下におけるムラサキ (<i>Lithospermum erythrorhizon</i> Siebold et Zucc.) の生育およびshikonin誘導体含量	生薬学雑誌	68(2)	印刷中	2014

総説等

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
川原信夫	今後の日本における薬用植物の国内栽培化に関する展望	特産種苗	16(9)	1-2	2013
川原信夫	(独) 医薬基盤研究所薬用植物資源研究センターの取り組み・薬用植物の国内栽培、振興及び資源確保を目指して	特産種苗	16(9)	6-10	2013
熊谷健夫	薬用植物の種子交換と発芽試験	特産種苗	16(9)	15-17	2013
杉村康司	熱帯、亜熱帯薬用・有用植物資源の収集	特産種苗	16(9)	18-21	2013
飯田修	薬用植物の種子の保存と発芽	特産種苗	16(9)	22-23	2013
柴田敏郎	シャクヤクの薬用品種育成について	特産種苗	16(9)	24-27	2013
林 茂樹	カンゾウの新品種育成について	特産種苗	16(9)	28-30	2013
村上則幸	北海道における農業機械化と薬用植物研究の歴史および機械化薬用植物栽培の展望	特産種苗	16(9)	31-34	2013
吉松嘉代、乾貴幸	植物工場における薬用植物の栽培・生産	特産種苗	16(9)	35-41	2013
湊野裕之	LCMSを用いた生薬の評価について	特産種苗	16(9)	63-69	2013
丸山卓郎、河野徳昭、小松かつ子	遺伝子解析技術を用いた薬用植物基原種の鑑別	特産種苗	16(9)	70-76	2013
河野徳昭	薬用植物総合情報データベースの構築	特産種苗	16(9)	87-93	2013

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
菱田敦之	薬用植物栽培・品質評価の作成	特産種苗	16(9)	94-96	2013
川原信夫	FHH における東アジア地域の生薬・薬用植物の国際調和の現状	特産種苗	16(9)	103-108	2013
柴田敏郎	生薬の国産化と今後の課題	漢方医薬学雑誌	21(3)	19	2014
柴田敏郎	日本の生薬供給および栽培の現状と課題、収穫の機械化は必須である	機械化農業	2013-11	14-19	2013
川原信夫	生薬・薬用植物の資源確保および生産流通の動向	技術と普及	50(8)	25-27	2013
林 茂樹	甘草の栽培について(後編)	道薬誌	30(4)	21-23	2013
林 茂樹	ムラサキの栽培について	道薬誌	30(6)	17-18	2013
川原信夫	生薬・薬用植物の資源確保および生産流通の動向	あおもり農業	763 (1)	80-83	2014

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
林 茂樹、菱田敦之、柴田敏郎、高上馬希重、山本豊、川原信夫	生薬の持続的供給を目指したカンゾウ国内栽培化への取り組み	甘草に関するシンポジウム実行委員会	甘草研究最前線2013	北海道医療大学生薬研究会	当別町	2013	p.23-26

